広 島 県 感 染 症 発 生 動 向 月 報

[広島県感染症予防研究調査会　感染症解析評価部会]
（平成１４年１２月解析分）

１　疾患別定点情報

定点把握（週報）四類感染症　　平成14年11月分(11月4日～12月1日：4週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号
1	インフルエンザ	62	0.13	0.04	↗	12	麻疹	3	0.01	0.02	
2	咽頭結膜熱	33	0.11	0.07	↘	13	流行性耳下腺炎	198	0.66	0.89	→
3	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	297	0.99	－	↗	14	急性出血性結膜炎	3	0.04	0.04	
4	感染性胃腸炎	3,639	12.13	4.18	↑	15	流行性角結膜炎	75	0.94	1.15	↖
5	水痘	479	1.60	1.34	↑	16	急性脳炎	1	0.01	－	
6	手足口病	137	0.46	0.40	↘	17	細菌性髄膜炎	0	－	0.02	
7	伝染性紅斑	14	0.05	0.07	→	18	無菌性髄膜炎	8	0.10	0.47	
8	突発性発疹	208	0.69	0.60	↘	19	マイコプラズマ肺炎	13	0.15	－	→
9	百日咳	7	0.02	0.03		20	クラミジア肺炎	0	－	－	
10	風疹	5	0.02	0.02		21	成人麻疹	0	－	－	
11	ヘルパンギーナ	10	0.03	0.08	↓						

※「過去５年平均」：過去５年間の同時期平均（定点当り）

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↖	→
↓	↘	↙	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減	殆ど増減なし（発生件数少数のものを含む）

※定点について

定点情報は，定点把握対象の四類感染症（週報対象 21 疾患，月報対象 7 疾患）について，県内 187 の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1～13	14，15	22～25	16～21，26～28	
定点数	44	75	20	27	21	187

この情報は，「http://www.pref.hiroshima.jp/fukushi/kenkou/kansen/index.html」のホームページに掲載しています。
全国情報については，「http://idsc.nih.go.jp」に掲載されています。
インフルエンザホームページについては，「http://influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp」に掲載されています。

定点把握（月報）四類感染症　　平成14年11月分（11月1日～11月30日）

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	49	1.81	2.23	↘	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染	107	5.10	－	⇨
23	性器ヘルペスウイルス感染症	15	0.56	0.62	↘	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	69	3.29	－	↗
24	尖圭コンジローム	12	0.44	0.37	↘	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	4	0.19	－	
25	淋菌感染症	26	0.96	0.94	↘						

※「過去５年平均」：過去５年間の同時期平均（定点当り）

○ インフルエンザ　　増加（10月2件⇒11月62件）
○ 感染性胃腸炎　　急増（10月1,251件⇒11月3,639件）
○ 水痘　　急増（10月269件⇒11月479件）
○ ヘルパンギーナ　　急減（10月54件⇒11月9件）

2　一類・二類・三類感染症及び全数把握四類感染症発生状況

○ 一類感染症　　発生なし
○ 二類感染症　　細菌性赤痢 2件発生（広島地域保健所 ソンネⅠ相 2件）
○ 三類感染症（腸管出血性大腸菌感染症）　　2件発生　（福山市 O157 2件）
○ 全数把握四類感染症　　10件発生
（急性ウイルス性肝炎 4件（A型 2件，B型 2件），ツツガムシ病 4件，梅毒 2件）

3　一般情報

○　レジオネラ症（全数把握対象四類感染症　　診断後7日以内に届出）

12月3日に呉市内の医療機関から呉市保健所へ30歳代の男性がレジオネラ肺炎により死亡された旨，届出がありました。レジオネラ症の発生状況は次表のとおりです。

	平成１１年	平成１２年	平成１３年	平成１４年
広島県	0	3	1	3
全　国	５３	１５１	８３	１５７

全　国：平成１４年１２月１日現在
広島県：平成１４年１２月１２日現在　　広島県の件数は本件を含む

1976年夏に，米国フィラデルフィア市内で，在郷軍人の全国大会が開催された際，ホテルの宿泊客及び通行人182名に原因不明の重症肺炎が発生し，このうち29名が死亡しました。その後の調査により，この病原体が，それまで知られていなかった新しい細菌によることが明らかとなり，在郷軍人を意味する“The Legion”にちなんで，レジオネラ症と命名されました。

（原因）レジオネラ属菌が原因で起こる細菌感染症で，レジオネラ属菌は，土壌や河川，湖沼などの自然環境に生息しています。
（症状）レジオネラ肺炎：発熱，せき，たん，呼吸困難とともに頭痛，筋肉痛，下痢，意識障害，精神神経症状などの呼吸器以外の症状も多くみられます。
ポンティアック熱：発熱，頭痛が主徴で肺炎がみられず，一般に軽症で，数日で治ることが多いです。
（感染経路）環境中からのエアロゾール（目に見えない微小な水滴）や土埃の吸入による経気道感染。
最近，冷房用の冷却塔水や温泉からの感染事例が報告されています。
ヒトからヒトへの感染はありません。
（潜伏期間）レジオネラ肺炎 2～10日
（診断）臨床症状のみでは，他の細菌性肺炎との区別は困難です。
たんなどからの病原体又は病原体遺伝子の検出，尿中抗原の検出，血清抗体の検出（ペア血清で4倍以上の上昇，シングルで256倍以上）などにより，総合的に診断されます。
（対策）冷房用の冷却塔や加湿器，温泉，公衆浴場などにおける定期的な清掃，消毒など。

参考図書：感染症の診断治療ガイドライン（日本医師会‘99）
東京都感染症マニュアル（東京都‘00）